

## ご挨拶

第56回全国大会は、去る10月28、29日の両日、愛知県立大学において開催され、四百名近くの参加者を迎えて盛況のうちに幕を閉じました。大会準備会の皆様、理事、評議員、各種委員、司会、その他さまざまな形でご協力をいただいた皆様、そして参加者の皆様に改めてお礼を申し上げます。

想い起こせば4年前、2002年の夏、国内外から百数十名の発表者と二百数十名の参加者を迎えて日本初の「国際中国言語学学会(ICCL)」が開かれたのが、ほかならぬ愛知県立大学でした。文字通り世界的規模を誇るこの学会は、当時の日本における中国語研究の水準を世界に知らしめる絶好の機会をわたしたちに与えてくれました。同時に、それは、日本の中国語学界が名実ともに新たな形の国際化に大きく踏み出す記念すべき一步を印した学会でもありました。まことに意義深いイベントであったと想い起こされます。

あれから4年。この間、日本中国語学会も、外形的にも内容的にもさまざまに国際化が進みました。具体的には、HPの英語版・中国語版の作成、海外会員の増加、海外特別編集委員の委嘱、大学院生を含む若い会員の国際学会への参加の急増等々が挙げられます。これら一連の国際化の流れを遡ってみますと、やはり、あの2002年の夏が一つの大きな節目であり、有形無形に現在の流れの原動力となっているように思われます。が、それは私個人の一人合点であるかも知れません。ともあれ、春のニューズレターでも申しました通り、今年度は組織も会則も面目一新、本学会にとっては「改革元年」とも呼ぶにふさわしい一年であります。その「改革元年」の全国大会が、かの国際中国言語学学会の開催地であった愛知県立大学で開かれたということに、なにか巡り合わせの妙のようなものを感じるのも、これまた私一人の妄想かも知れません。

最後に、個人的な感想、とお断りした上で、今回の全国大会について特筆すべき事柄を2点挙げさせていただきます。一つは、初日の記念講演が、日本語を最も得意とされるはずの岩田礼氏の報告をも含めてすべて中国語で行われ、司会も質疑もすべて中国語で行われたこと。いま一つは、翌日の一般発表に、海外から、有数の研究者と現役の大学院生が複数、発表者として参加されたこと。まさに国際学会さながらの状況と言えましょう。とりわけ、海外の大学院生がこの大会のために来日し、発表者として参加するということは、これまでにはなかった新しい変化であり、海外会員の増加が早くもこのような形で実を結んでいるということは喜ばしい限りです。「国際～」などと殊更に謳わずとも、全国大会が例年このように海外からの一般発表者の参加を得、国内に居乍らにして海外の研究者と議論を交わし切磋琢磨することのできる場となれば、学会にとってはたいへんに価値のある、誇らしいことだと思われれます。

さて、来年の全国大会は、総会でも報告致しました通り、沖縄の琉球大学です。今回長久手には国際化の風が吹きました。一年後の沖縄にはどんな風が吹くのでしょうか。沖縄大会の成功と本学会の更なる発展を祈念しつつ、秋恒例のご挨拶とさせていただきます。

2006年11月22日 日本中国語学会会長 木村英樹

## 会議報告

### 2006 年度評議会・総会報告(10月28日愛知県立大学学術交流センター・講堂)

#### I. 報告事項

##### 1. 会務報告

###### (1) 会員動向

総会員数 1,143 名(うち顧問 5 名、名誉会員 28 名、通常会員 1,089 名、海外会員 21 名。なお名誉会員・通常会員中 97 名がネット会員);賛助会員 21 社(11月6日現在確定数)

評議会及び総会では10月25日時点での数字を報告しましたが、その後、内規に基づく除籍者の確定、及び大会時に若干の新入会員を受け入れたこと等により、上記確定数を記します。

なお、昨年度の大会(2005年10月31日確定数)以降の異動は以下の通りです。

新入会員 65 名(海外会員 10 名を含む)、退会者 17 名、除籍者 37 名、ご逝去 1 名。即ち、前年同期比 10 名増。

###### (2) 『中国語学』発行

『中国語学』253号、2006年10月28日発行、発行部数 1,500 部。

###### (3) 名簿作成

2006 年度版『会員名簿』(9月30日現在)、2006年10月20日発行、発行部数 1,300 部。

###### (4) 支部例会報告(『中国語学』253号彙報参照)

##### 2. 編集委員会報告

###### (1) 『中国語学』253号編集作業

編集過程で生じた体裁等の問題について報告があった。

###### (2) 執筆要領等の改定

『中国語学』投稿原稿執筆要領を改定した(『中国語学』253号 pp.392-393)。要点は以下の通り。

サマリーの使用言語についての改定(「1:使用言語」第2項)。

現代語文献からの引用例についての出典の明記(「4:引用例の出典」第1項)。

なお「『中国語学』投稿規定」及び査読要領の改定については、引き続き検討していくこととした。

###### (3) 編集委員の交代

編集委員のうち、杉村博文委員長、古屋昭弘・Christine Lamarre 両委員が任期満了により退任。これに伴い、太田斎・木津祐子・小野秀樹の三氏が新たに編集委員に就任した。また委員の互選により、太田斎氏を新編集委員長に選出した。

###### (4) 海外特別編集委員の交代

石汝傑特別編集委員の退任に伴い(日本国内への転任のため)、陸丙甫氏(上海師範大学)に海外特別編集委員を委嘱することとした。

###### (5) 科研費の申請

今年度に引き続き、平成19年度の『中国語学』の刊行助成に係る科学研究費補助金を申請することとした。

###### (6) 学会奨励賞

池田晋氏「“来”の代動詞的用法とダイクシス」、井出克子氏「量詞と形容詞の共起関係について 描写対象の認知体系に着目して」

##### 3. ウェブリソース委員会報告

- (1) 論文検索システムについて  
252号(2005年発行)掲載論文の書誌情報・キーワード・サマリーを収録し、インデックス化して検索できるようにした。
  - (2) 電子通讯について  
第4号(6月～9月)まで発行済み。なお必要な経費は以下の通り。  
初期費用(2006年度の1回のみ):配信用ソフト購入・環境設定、配信テスト(一式 ¥50,000-)  
経常費用(年間経費):配信作業(1回/月)・メールアドレス追加、更新(一式 ¥3,000×12=36,000-)
  - (3) 学会奨励賞論文の掲載について  
『中国語学』252号所載の学会奨励賞論文については、近日中に学会HPにて公開。それ以前のものについては技術的な問題を解決する必要があるため、今後引き続き検討。
  - (4) HPの掲載事項について  
中国語学会のウェブサイト、大学・研究機関等の公募情報へのリンクを掲載するページを新設。
4. 次期大会開催校  
琉球大学で2007年10月27 - 28日開催の予定。
  5. その他
    - (1) 関東支部拡大例会を、2007年3月17日(土)に明治大学(駿河台校舎)にて開催予定。
    - (2) 太田齋評議員の編集委員長就任に伴い、関西支部の代表は11月1日付けで太田評議員から岩本真理評議員に交代する。

## II. 審議事項

1. 決算案・予算案
  - (1) 2005年度会計決算(後掲資料1参照)  
土田前幹事による報告・説明、及び竹越孝監査による会計監査報告があり、報告の通り承認された。
  - (2) 2006年度補正予算(後掲資料2参照)  
大西幹事による提案・説明があり、原案の通り了承された。
  - (3) 2007年度会計予算(後掲資料3参照)  
大西幹事による提案・説明があり、原案の通り了承された。
2. 顧問・名誉会員の推挙  
顧問に慶谷壽信氏(1992 - 1993年度 理事長)、榎本英雄氏(1998 - 1999年度 理事長)が推挙され了承された。名誉会員の推挙はなかった。

(資料1)

日本中国語学会 2005 年度会計決算書(2005 年 4 月～2006 年 3 月)

2006 年 10 月 28 日総会承認

	予 算	決 算
< 収入 >		
前年度繰越金	4,485,795	4,485,795
積立金	4,000,000	4,000,000
通常会員・海外会員会費収入	6,000,000	5,579,900
賛助会員会費収入	500,000	600,000
『中国語学』売上金	482,109	482,109
印税	24,500	24,500
通常貯金利子(05/4～06/3)		107
計	15,492,404	15,172,411
< 支出 >		
	予 算	決 算
会誌印刷費	2,350,000	2,217,560
大会助成費	750,000	750,000
支部活動助成費	500,000	515,783
通信費	700,000	575,768
事務費	1,000,000	1,249,304
事務局費	650,000	650,000
編集局費	120,000	120,000
旅費交通費	900,000	1,033,000
会議費等雑費	120,000	110,850
学会奨励費	100,000	100,000
ホームページ関係経費	900,000	687,690
選挙関連費	100,000	44,769
積立金	3,500,000	3,500,000
次年度繰越金	3,802,404	3,617,687
計	15,492,404	15,172,411

監査の結果、経理内容は適正であり、会計諸表は的確に処理されていることを認めます。

2006 年 5 月 6 日

2005 年度会計監査  
2005 年度会計監査

中 川 裕 三  
竹 越 孝

(資料2)

日本中国語学会 2006 年度会計補正予算(2006 年 4 月～2007 年 3 月)

2006 年 10 月 28 日總會承認

< 収入 >		< 支出 >	
前年度繰越金	3,617,687	会誌印刷費	3,200,000
(通常貯金利子約 100 円を含む)		大会助成費	950,000
積立金	3,500,000	名簿印刷費	600,000
通常会員会費収入	5,900,000	支部活動助成費	600,000
賛助会員会費収入	500,000	通信費	650,000
『中国語学』売上金	560,490	事務費	950,000
科学研究費補助金(研究成果公開 促進費)	900,000	事務局費	650,000
印税	24,500	編集局費	120,000
計	15,002,677	ウェブ・リソース委員会経費	120,000
		ホームページ関連経費	180,000
		旅費交通費	900,000
		会議費等雑費	180,000
		学会奨励賞	100,000
		積立金	3,000,000
		[内訳]	
		記念大会積立金(50 万)	
		事務委託関係積立金(150 万)	
		ウェブサイト構築積立金(50 万)	
		国際会議開催支援積立金(50 万)	
		予備費	2,802,677
		計	15,002,677

(資料3)

日本中国語学会 2007 年度会計予算(2007 年 4 月～2008 年 3 月)

2006 年 10 月 28 日総会承認

< 収入 >		< 支出 >	
前年度繰越金	2,802,677	会誌印刷費	3,200,000
積立からの繰入金	3,000,000	大会助成費	950,000
通常会員会費収入	5,900,000	支部活動助成費	600,000
賛助会員会費収入	500,000	通信費	650,000
『中国語学』売上金	450,000	事務費	950,000
計	12,652,677	事務局費	650,000
		編集局費	120,000
		ウェブ・リソース委員会経費	120,000
		ホームページ関連経費	180,000
		旅費交通費	900,000
		会議費等雑費	180,000
		学会奨励賞	100,000
		選挙関連経費	100,000
		積立金	3,000,000
		[内訳]	
		記念大会積立金(50 万)	
		事務委託関係積立金(150 万)	
		ウェブサイト構築等積立金(50 万)	
		国際会議開催支援積立金(50 万)	
		予備費	952,677
		計	12,652,677



## ●第 57 回全国大会開催のお知らせ●

2007 年 10 月 27 日(土)・28 日(日)の両日、琉球大学にて開催いたします。沖縄では初めての全国大会です。暖かい南の島での大会にどうぞ奮ってご参加下さい。詳しいご案内は、2007 年 5 月中旬頃にお送りする予定です。

### 研究発表応募規定

1. 研究発表の申し込みは本学会会員に限る(応募時に会員であり予稿集原稿の寄稿時までには当該年度までの会費を納付していること)。ひとりの会員が、複数の発表の筆頭発表者となって申し込みをすることはできない。
2. 他学会で正式に発表したもの及び応募中のものを二重に申し込むことはできない。
3. 使用言語は、日本語・中国語を原則とする。
4. 発表希望者は、発表要旨を大会準備委員会あてに郵送もしくは宅配便により送付する。持参されたものは受理しない。申し込み締め切りは 6 月 30 日(国内郵便局消印・宅配受領印有効)とする。
5. 発表要旨は、以下の要領にしたがって、(A)発表申込者原簿を 1 部、(B)審査用要旨を 3 部提出する。
  - (A)発表申込者原簿(A4 判用紙 1 枚、1 部提出)。  
発表題目・氏名・住所・所属機関・職または身分(教授、院生、非常勤講師等)・連絡先(電話・e-mail・ファックス)・発表希望部会(文法語彙・文字音韻方言・教育法開発)、ある場合は、研究発表歴(最近 3 年間の主要な口頭発表、論文題目(投稿中も含む)・掲載誌)を記す。
  - (B)審査用要旨(A4 判用紙 1 枚、3 部提出)。  
発表題目、要旨本文(題目の字数を含めず、日本語・中国語で 1200 字以内、40 字×30 行)のみを 10.5 ポイント以上のフォントで印刷する。図表がある場合も、上記の分量内に収めるものとする。審査用要旨に氏名や所属は書かない。また、要旨本文中に、執筆者名が特定できるような表現を用いること及び特定の個人への謝辞を記すことは、避ける。
6. 理事会と協議の上で、大会準備委員会が採否を決定する。結果は 7 月 31 日までに郵送で通知し、学会ホームページ上に採択された発表者の氏名・発表題目を公表する。
7. 研究発表が採択された場合は、大会準備委員会の指定する期日(国内郵便局消印・宅配受領印有効)までに、大会準備委員会あて、予稿集原稿プリント(A4 判 5 ページ以内厳守。別に詳しい規定を定める)を郵送もしくは宅配便で提出する。大会準備委員会は必要に応じて電子テキストの提出を求めることがある。
8. 発表日時については、大会準備委員会が決定する。
9. 予稿集掲載論文は正規の研究論文とは見なされないため、引用・言及にあたっては事前に発表者の了解を得るなど、相互に細心の注意を払うこととする。発表者自身が転載することに関しては、本学会大会発表論文であることを明記する限りにおいて、これを妨げない。

(琉球大学・第 57 回全国大会準備委員会)

## ●第 1 回関東支部拡大例会・研究発表募集●

来る 2007 年 3 月 17 日(土)、明治大学駿河台キャンパスにおいて、第 1 回関東支部拡大例会を開催いたします。発表をご希望の方は下記までご連絡ください。

筑波大学人文社会科学部研究科 佐々木勲人  
ysasaki@sakura.cc.tsukuba.ac.jp

## 事務局からのお知らせ

### 名誉会員の推挙

名誉会員のご推挙は下記事務局宛にお願いします。

### 2006 年度会費納入のお願い

会費未納の方には、振込用紙を同封しております。本年度会費(一般会員 6,000 円、ネット会員 5,000 円)を最寄りの郵便局からお振込下さい。事務運営上、2006 年 12 月 20 日までにご入金くださるよう御協力をお願い致します。

郵便振替 加入者名:日本中国語学会 口座番号:00120 - 2 - 536256

### ネット会員制度登録へのお願い

1. 2005 年度からネット会員制度を設けています。ネット会員の申込受付は 1 月 1 日 ~ 3 月 20 日 の期間となっております。会員のみなさまの同制度への登録をお待ちしております。
2. ネット会員は、会費 1,000 円の割引を受けることができます。年度の会費請求の際、請求額が 5,000 円になります。
3. ネット会員には、ニュースレター及び研究例会(支部例会)通知が郵送されませんので、ホームページによって必要な情報をチェックしていただくようお願いいたします。
4. ネット会員を希望する会員は、学会ホームページから申込書をダウンロードし、必要事項記入の上、学会事務局に郵便またはファックスで送付して下さい。電子メールでの申し込みは受け付けません。

### 学会事務局

〒113-0033

東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学文学部中文研究室内

E-mail: secretariat@chilin.jp

URL: <http://www.chilin.jp/>

TEL/FAX: 03-5841-4892